



令和6年度 家久保育園取り組みと評価

令和7年3月18日

この度、令和6年度の保育園評価として、職員が自己評価を実施しました。また、それぞれの評価を踏まえて話し合い、成果や課題、改善の方向性などを明らかにしました。この結果を受け止め、さらなる保育活動の充実や職員の資質向上に努めてまいります。

【成 果】

- 子ども達が、日常生活の中で何に関心をもち、何に意欲的に取り組んでいるのかを捉え、その姿から発達を見通し、子どもの発想や意欲を大事に受け止めてきました。また、園内でのみあっこ保育を通して、子どもの姿を見取り、関わり方や援助、環境構成について職員間で話し合うことで、自分の保育の振り返りにつながり、保育の質の向上につなげることができました。
- 教育・保育の活動や行事の取り組みでは、子ども主体となるように、日々の保育からのつながりを意識し、職員間で検討しながら工夫してきました。また、保護者の方には、親子遠足や運動会、生活発表会、保育参加等を通して、子どもの姿や年齢の発達を実感してもらうことができました。
- 園だよりやクラスだより、ドキュメンテーション、懇談等を通して、園での子どもの様子や園児同士の関わり、成長の過程などを伝えてきました。また、コドモンを利用して、日々の保育の様子を写真と共にタイムリーに発信することで、保護者の方の安心感にもつながり、家庭内(両親、祖父母)、保護者同士においても共有され、子どもの興味を広げたり深めたりすることにつながりました。



【課 題】

- 子ども一人一人が伸びやかに生き生きと活動することができるように、職員同士で話し合う場をもち、子ども一人一人の発達に合わせて育みたい力や願いについて意識しながら関わったり、環境を整えたりしていくことを継続していくことが必要だと考えます。
- 子どもの安全を守るために、日々室内整備や安全点検に努め、様々な災害に対して備え、検証していくことが必要だと考えます。また、防犯対策への認識を深めるために、様々な場面を想定した訓練を繰り返し行っていくことも大切であると考えます。

【来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策】

- クラス職員間や職員全体で、日々の子どもの姿や学び、環境構成や保育者の援助について話し合ったり、互いにアドバイスし合ったりして保育の質の向上に努めます。そして、子ども一人一人を尊重する保育や発達に即した願いをもった関わりや環境づくりに努めていきます。
- 災害時や重大事故、不審者の侵入など危機管理マニュアルを確認し、どのような場面においても迅速に対応できるよう職員全員の共通理解のもとで様々な想定訓練を繰り返し行います。また、その中で見えてきた課題を検討し、職員間で情報共有し、危機管理意識の向上に努めていきます。
- 地域に開かれた園の役割を意識し、子育て支援の充実を図っていきます。そして、保護者の方や地域の人達、小学校、幼稚園、こども園、専門機関との連携を生かしながら、様々な人達との豊かな人間関係を築き、自己肯定感を育むことができるように計画的に交流を行っていきます。